

対話型アート鑑賞で 障害者と地域をつなぐ

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した一般社団法人シブヤフォントの取り組みを紹介します。

障害者アートを通じた ソーシャルアクション

東京都渋谷区にある一般社団法人シブヤフォントは、障害のある人が描いた文字や絵をオープンフォントとして社会に提供し、企業や団体、個人に活用してもらうことで障害者の社会参加の機会を創出するとともに、地域を活性化することに取り組んでいる。

共同代表の磯村歩氏は富士フィルムでデザインに従事、退職後に福祉先進国のデンマークに留学し、ソーシャルインクルージョンの取り組みを学んだことをきっかけに株式会社フクフクプラスを設立。障害者アートのライ

センス事業、企業研修事業、デザインコンサルティング事業を行うなか、平成28年に渋谷区障がい者福祉課から東京オリンピック・パラリンピックに向けた「渋谷みやげ開発プロジェクト」の事業委託を受け、渋谷区内の障害者支援事業所と桑沢デザイン研究所の学生との協働事業として「シブヤフォント」を立ち上げた。令和3年4月に一般社団法人化し、フクフクプラスから「シブヤフォント」作成事業を受け継ぐかたちで運営している。

「シブヤフォント」とは、障害者の描いた文字や絵をもとに、デザイン学校の学生が彼らと協働してフォントやパターンとしてデザイン化した渋谷区公認のパブリックデータであり、現在588種類のデータを公開している。障害者アートは、著作者の権利保護の観点から作品の加工ができないケースが多いなか、シブヤフォントではフォントとパターンの色や大きさを変えたり、パターンの一部を抜き出し、自由に組み合わせ活用することができ、フォントについてはすべて無料でダウンロードすることが可能となっている。

現在、「シブヤフォント」は数百点の商品に採用されるほか、80社を超える企業と契約

ひと言

WAMから

障害者と学生が共創したアートワーク「シブヤフォント」を使用した企業研修や教育機関向け「体験型アート鑑賞プログラム」の開発と、そのプログラムを進行するファシリテーターを育成し、障害者の生活や働き方を地域に伝えたことは、地域住民の意識改革につながりました。福祉施設や企業から研修の依頼が増えていることや他地域での活動も予定されていることから今後の広がりも感じられ、さらなる地域共生社会の実現化に期待します。

地域と障害者が つながる機会を創出

し、ノベルティ品やアパレル、住環境のデザインなどに活用されている。商品の売り上げやデータ利用料の一部は協働する障害者支援事業所に工賃として還元しており、地域の活性化とともに、障害者の社会参加や経済的自立につながっている。

同法人は、令和4年度のWAM助成を活用し、「障がい者と地域をつなぐ対話型アート鑑賞の運営人材育成事業」を実施した。同事業は、地域と障害者をつなげる機会の創出を目的に、①障がい者アートの鑑賞プログラムを地域で運営する人材育成カリキュラムの構





ABCDEFGHIJKLMN
OPQRSTUVWXYZ
1234567890



障害者とデザイン学校の学生が協働でデザインしたフォントとパターン。現在 588 種類のデータを公開している



80 社を超える企業と契約し、ノベルティ品やアパレルなど数百点の商品に採用されている

築、②体験プログラム開発、③原画の保管、管理体制の構築を行った。
事業を実施した経緯について、磯村共同代表は次のように説明する。
「当法人は、約 600 点のフォントやパターンデータを運用し、多くの商品に採用されることにより、年間 400 万円以上の工賃還元を実現してきました。その一方で、障害者が地域とつながるという実態に乏しく、商品購入者においても障害者の存在を認知するだけにとどまっている現状がありました。地域と障害者をつなぐ機会の創出が求められるなか、シブヤフォントを使用して対話型アート鑑賞のプログラムを通じて障害のあるアーティストの生活や働き方を伝え、相互理解を深めていくことを目指し、プログラムを進行するアートファシリテーター

ターを育成するとともに、新たな体験プログラムの開発に取り組みました」（以下、「」内は磯村共同代表の説明）。
なお、対話型アート鑑賞は、MOMA（ニューヨーク近代美術館）が開発した美術鑑賞プログラムで、作家名や作品名などを伏せ、グループでアート鑑賞をしたあと、ファシリテーターの問いかけに対し、その場で感じたことや気づきなどを参加者同士で対話しながら共有する内容となっている。ファシリテーターは、参加者のニーズや状況に応じて題材にするアート作品や問いかけを用意し、参加者の意見を肯定しながら自由な対話が

できる環境をつくることが求められるという。

障害者と地域をつなぐアートファシリテーターを育成

全 5 回実施したアートファシリテーターの人材育成カリキュラムは、40〜60 歳代のアートに関心のある 13 人が受講した。

カリキュラムの内容としては、これまで同法人が培ったノウハウをまとめたテキストを作成し、そのテキストをもとに講義を行った。

令和 4 年度事業

一般社団法人シブヤフォント

障がい者と地域をつなぐ対話型アート鑑賞の運営人材育成事業



WAM 助成
e-ライブラリー

事業概要

助成額

312 万 1 千円

【事業概要】

障害者アートを通じて障害者と市民をつなぎ、互いに支えあえる地域共生社会を推進することを目的に、対話型アート鑑賞を実施するファシリテーターを育成するとともに、新たな体験プログラムを開発する事業

【実施内容】

- ◆障がい者アートの鑑賞プログラムを地域で運営する人材育成カリキュラムの構築
障害者と市民をつなぐ対話型アート鑑賞のプログラムを進行するアートファシリテーターを育成
- ◆体験プログラムの開発
企業研修や学校における美術教育、民間学童向けの知育プログラムとして採用されるプログラムを開発
- ◆原画の保管、管理体制の構築
シブヤフォントの元となった原画を協働する障害者支援事業所から購入し、データベース化することにより利用を促進



【成果】

- ◆アートファシリテーター育成講座は、受講した 13 人を公認ファシリテーターとして認定した。それぞれがボランティアベースでプログラムを企画・実施するとともに、シブヤフォントの活動を支えることにつながった
 - ◆体験プログラムの開発では、障害者アート普及の専門家である大学教授の監修を受け、新たに 15 種類のプログラムを開発することができた
- 助成事業の波及効果
令和 6 年度から実践する体験型アート鑑賞プログラムが渋谷区内の小中学校の探究学習プログラムとして採用されることになった。また、収益事業として企業や大学向けに有償の対話型アート鑑賞プログラムを実施し、事業を継続的に運営する基盤づくりが進められている
- さらに、これまでシブヤフォントが培ってきたライセンス事業や障害者支援事業所との連携、プロモーションなどの運営ノウハウを提供する有償プログラムを実施し、「ご当地フォント」として全国 16 地域（令和 6 年 4 月現在）に活動が広がっている





人材育成カリキュラムを受講した13人を公認ファシリテーターとして認定



対話型アート鑑賞プログラムを実施する様子

講義ではシブヤフォントの取り組みや、対話型アート鑑賞プログラムの目的、障害者アートを通じて人と人をつなぐ出会いの場をつくるという役割や手順について学んだ。その後は、受講者同士で対話型アート鑑賞プログラムの実践を繰り返し、渋谷区の小学校や放課後等デイサービス、放課後クラブ、こども食堂、高齢者施設など、外部での対話型アート鑑賞プログラムの体験を行った。

「アートファシリテーターは、障害のある人と地域をつなげる橋渡しの役割を担うため、人材育成カリキュラムでは、シブヤフォントの活動に関わる渋谷区の職員や障害者支援事業所、学生デザイナー、アートディレクターなどを招き、現場の声を伝えることに取り組みました。さらに、受講者は障害者支援事業所を訪問し、障害者とコミュニケーションを図りながら、アート作品が生まれる現場に立ち会ってもらいました。そうすることで対話型アート鑑賞のプログラムの際に、参加

者に障害者アーティストのことや作品が生まれた背景などを伝えられるようにして、他者からの共感を生み出しやすくしています」。

アートファシリテーターの人材育成は、受講した13人を公認ファシリテーターとして認定し、認定者には対話型アート鑑賞プログラムで使用する額装アートとイーゼルを提供した。

「そのほかにも、対話型アート鑑賞プログラムの参加者に配布するシブヤフォントの商品カタログと鑑賞用ポストカードを制作し、認定者に提供しました。ポストカードの裏面には作品のもとになった障害者アーティストが描いた原画と作品をダウンロードできるQRコード、アーティストとデザイナーの名前、事業所名を掲載することにより、障害者や事業所のことを知ってもらい、つながるきっかけにしています」。

認定したファシリテーターは、それぞれに受けた際には、ニーズに応じてプログラムを考へて実施しているという。

新たに15種類のプログラムを開発

体験プログラムの開発では、地元企業の研修や小中学校における美術学習、民間学童向けの知育プログラムに採用しうる

対話型アート鑑賞プログラムの開発に取り組んだ。

プログラムの開発にあたっては、障害者アート普及を専門とする大学教授の監修を受け、新たにシブヤフォントのアート作品を選定し、それぞれの作品ごとに効果的な問いかけを想定した15種類のプログラムを開発することができた。

「近年は、対話型アート鑑賞プログラムを研修に取り入れる企業が増えています。美術鑑賞の感想には正解がなく、自分の意見を話しやすい、対話を通じて交流が図られたり、互いを知ることにつながることから新人研修で採用されたり、柔軟な発想力の向上やチームビルディングの気づきとして、リーダー層の研修で採用されることが多くなっています。シブヤフォントとしての企業研修の実績はまだそれほどありませんが、フクフクプラズでは50社以上で実施しており、私たちがリードファシリテーターを担い、助成事業で育成した人々たちにもサブファシリテーターとして活動に関わっていただいています」。

原画やデータの一元管理により利活用を促進

そのほかにも助成事業では、シブヤフォントの元となった原画82点を、協働する障害者支援事業所から購入し、同法人で保管、管理する体制を構築した。原画はスキャン後にデータベースに登録し、作家名で検索したり、商品採用の実績一覧などを閲覧できることにより、ライセンス事業の利活用の促進につな



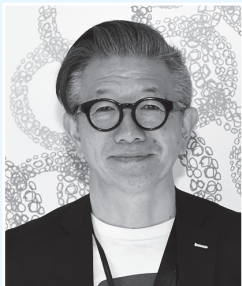
この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版權者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

助成事業の成果として、対話型アート鑑賞のプログラムを進行するファシリテーターを育成するとともに、新たに体験型プログラムを開発することができた。「地域と障害者をつなぐ役割を担うファシリテーターを育成し、現在も当法人の活動をボランティアとして継続的に支

収益事業としての活動が広がる

「データベースにアクセスすることで、原画や制作したフォント・パターンのデータをダウンロードすることができ、ファシリテーターがプログラムを考えるときに、データベースから使用する作品を選ぶなど、プログラムの開発においても有効活用できています」。

「ご当地フォント」として 全国16地域に活動が広がる



一般社団法人シブヤフォント
共同代表 磯村 歩氏

現在、新たなプロジェクトとして、シブヤフォントの活動に参画するチームを募集し、「ご当地フォント」として全国各地に広げることに取り組んでいます。参画するチームには、ライセンス事業や著作権、使用許諾など契約に関することや、障害

者支援事業所との連携体制の作り方、制作したデータのプロモーション方法などのノウハウを提供するプログラムを実施しており、現在は全国16地域に活動が広がっています。

このプロジェクトは、それぞれが競合するのではなく、紹介しあうことで互いにWin-Winの関係になるネットワークとなっています。全国の障害者アートのアーティストが地域でつながり、全国規模で仕事を受注することができたり、障害者アートを広げていくことができる仕組みとなっています。

◆団体概要

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-31-21
原宿スクエア(ハラカド)7階
TEL: 03-6910-8960
URL: <https://www.shibuyafont.jp>
設立: 令和3年4月
共同代表: 磯村 歩、古戸 勉



社会福祉振興助成事業に
関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課 (助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)
TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課 (助成事業の広報、事業評価等)
TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)



令和6年4月に開設した新拠点「シブヤフォントラボ」。多様な人たちが出会える場所として運営している



の新たなランドマークとして開設している。業施設内に新拠点を開設している。

「現在、シブヤフォントの事業は、渋谷区が基本構想に掲げる『ダイバーシティ&イン

えてくれていることは大きな成果となりました。助成事業の波及効果としては、令和6年度より強化される渋谷区立小中学校の探求学習プログラムへの採用や、企業・大学向け有償プログラムの実施による収益事業化など、事業を継続的に実施する基盤をつくることにつながっています」。

さらに、同法人は令和6年4月に渋谷区・原宿

クルージョン』を体現するシンボリックなアイコンとして認知されています。新拠点ではシブヤフォントを採用した商品の物販だけでなく、障害のある人たちの実演販売を実施したり、交流イベントなどに活用できる広いスペースも設け、多様な人たちが出会える場所として運営しています」。

障害者アートを通じて障害者の社会参加や経済的自立、地域の活性化に取り組み同法人の取り組みが全国に広がることが期待される。

NPO等の民間福祉活動への
応援よろしくお願いします!

当機構では
寄付金を募集
しています



お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)

